



第46回岡山県ことばを育てる親の集い 開催

通い合うところとことば

2011年6月11日(土) 場所： 早島町 ゆるびの舎

恒例の親の集い(総会と研修会)が、6月11日 早島町総合会館 ゆるびの舎で開催されました。ゆるびの舎での開催は初めてでしたが、60名あまりの皆さんに参加いただき、4人の先生方や親御さんに体験発表をしていただき、会員の皆さんの思いが通い合った時間、場所となり有意義な集いが開催できました。



総会では、活動報告、活動計画、決算、予算の報告と新役員選出がされ、賛成多数で承認されました。主な役員は次の通りです。

会長は、引き続き 岡野一保美(倉敷)、 副会長は 齋藤文子(事業部長 倉敷五福)津村美香(研修部長 伊部) 福島 薫(広報部長 津山西)の3名の方、事務局長は、新任の蜂谷路子(早島)です。

第2部の体験発表会では、2人の先生と2人の親御さんに、体験と思いを語っていただきました。



突然通級を担当することになった先生の戸惑いと熱い思い、ベテランの先生の一人で担当する悩みと次の先生につなげていきたいという思い、通級との出会いで得た子どもの成長を喜びつつもこれからの進学や社会へ出て行くことへの不安を感じるお父さん、通級と子育て真っ最中・回りの方からの支えの必要性を感じたお母さん、この紙面では、書ききれませんが、主な内容を紹介します。

◎ 倉敷市立大高小学校 OB 保護者 平松弘造さん

中3男子の父親です。当初、我が子が特に変わっていると思っていたいなかった親でした。子どもの状況に気づいてから、妻が公務員ということもあり、子どものため私が自由に動ける職を選びました。小3の時、学校から子どもについて「共同生活ができない、社会生活も無理」と言われました。妻は、学校へ行くのをためらう子どもを分かっていたようですが、私は分かっていたいかなかったのです。小5になって、大高小通級教室、清水先生と出会いがなかったら、どうなっていたか・・・自校で放課後すぐにクラスの友達にも注視されず通級でき、恵まれていました。でも、これからが大変。高校、その後の就職をどう確保するか、頭を抱えています。本人は「高校は行きたいが、勉強のないところがいい。」と・・・間違いなく子どもより先にいってしまう私、不安を感じつつも、息子と兄弟みたいで気持ちの強い妻と共に過ごしていくでしょう。



◎ 瀬戸内市立邑久小学校教員 柴田泰子先生

伊部小で3年過ごし、邑久小で5年目の通級担当者です。以前、東備地区には、通級が伊部小のみでしたが、近年、赤磐市、瀬戸内市、和気町に教室ができ充実してきました。私の教室は、小さい教室なのでことばも情緒も発達障害の子どもさんも、いろいろ受け入れています。話すのが苦手でも好きなことを通して、コミュニケーションとれるようになったり、我慢できなかった子がゲームで負けても我慢し怒らなくなったりと、いろいろな変容を見せてもらっています。個々の子どもに時間割や指導内容があり、通級担当は体を壊しても、通常担任のように代員をたてればよいというわけにもいきません。保護者と懇談も1時間してもしきれない等、カウンセラーのような仕事だと気づきました。



通級指導教室の認知度も増し、現在30名近くの子どものみを1人で担当している現状で、担当が2人はほしいと望んでいます。茶話会から始まった親の会ですが、集まれば親同士同じような思いで集まり、うなずきあい励ましあっている様子に、県の親の会のサポートも受けながら、できることをしていく必要を感じています。

在籍学級の担任とも情報を密にし連携し、ゆっくり着実な子どもの歩みを支えていきたいと思います。担当者も2人になって、次の若い指導者たちに引き継いでいきたいという思いもいっぱいです。

◎ 倉敷市立倉敷東小学校保護者 平松京子さん

子どもが通級をし始めて約8年。はじめは長男の発達に不安を感じ長女のことには気づかない母親でした。生まれつきのレックリングハウゼン病を2人とも持っている中、知的発達障害もあると分かり、判断のつかない中、苦しみ、子どもの首に手をかけてしまいそうになり、はっと我に返ったこともありました。理解者がいない中、自分一人で抱えて過ごしていました。



ある日、知り合いのお母さんから「〇〇ちゃん、様子がおかしいよ。気づいてる？」と声をかけられ長女の様子にも目が向けられたこともありました。長男にどんなに教えてもできず、「出て行きなさい!」叱りつけた時、同じマンションの方が「この子はここにこして挨拶のできる可愛い子じゃ。怒る気持ちは分かるけど、僕に免じて今日は許してやられえ…。なあぼく、お母さん好きだよなあ。」と話されたこと。回りの方々に救われた思いでした。

私たち障害をもつ子の親は、数倍の力を子育てに要します。障害をもつ子の親としての悩みと同年齢の子どものもつ心身の悩みを同時に抱えながら、子育てをしていかねばなりません。それを乗り越えるためには、見守って認めてくれる環境と人が必要と強く感じます。また、それを伝えていくことで障害児に関わる悲しい事件がなくなることの一助ができればと願っています。

◎高梁市立高梁小学校教員 島田和紀先生。



ことばの教室担当となって2ヶ月です。

高梁小学校で、いきなり通級指導教室の一人担当になり、私自身も不安でしたが親御さんはもっと不安だったでしょう。

前任校の校長から転勤の話があり、ことばの教室担当であることを聞かされました。ことばの教室は知っていましたが、私自身、ほとんど未経験の分野でした。校長いわく「特別支援教育を学ぶことは教師の幅を広げてくれる。」このことばを、よく覚えています。学校を離れて2ヶ月の久里浜での研修で、全国の同志の先生との出会いは、大きな財産となりました。

ことばの教室で、まず求められていることは、子どもの困り感をしっかり見極めることだと思います。その子の障害ばかりに目を向けず、子どもと教師とのこころの通じ合いを大切にしたいと考えています。今まで、目の前の見える範囲の子どもや保護者の姿しか見ておらず、子育ての苦労や子どもへの思い、保護者自身の思いを想像できていませんでした。表面上のつながりばかり求めていました。子どものためという視点が抜け落ちていたと反省します。子どものよりよい暮らしを保護者と共に考える、そんなことばの教室担当者になりたいと思っています。

また、参加された多くの方からの感想をいただきました。一部ですが、紹介します。

※役員を引き受けたのだから仕方がない、という気持ちでの参加(すみません)でしたが、終わってみて、得る物がたくさんあり、参加してよかったと思います。通級に通わせてもらっている裏では、たくさんの方がたくさん時間を使って動いているのが分り、体験発表では共感できる、勉強になる感じで聞き入ることができました。ありがとうございました

※体験発表を聞いて、親が思っている以上に子どもはがんばっていることに気がついたように思います。もっともっと子どもを見つめてやりたいと思いました。私の家の長女ももしかして、気がつかないうちに信号を出しているのかもしれないと…。先生としての不安(気持ち)が担当の先生とダブって、先生の気持ちがなんとなく分かったような気がします。もっともっと聞きたかった。

※学校の担任の先生と一緒に研修などが受けられたらいいなあと思います。

※今まで県へアンケートなど見過ごしていたところがあったのですが、やはり親自身が動く!!ということが大切なのだと思います。親の会で役員をしていますが、何らかの形で広めていきたいと思います。

とても参考になりました。準備も大変だと思います。スタッフの皆様に感謝したいと思います。ありがとうございました。

※OBの方のお話で、とても共感が持てました。過去の体験、将来への不安、同じような思いを抱えて、子育てをしていると分かって心強くなりました。今回初めて参加させていただきましたが、参加できて良かったです。

※先生たちも、ご苦勞されているお話を聞き、先生も大変なことがよくわかりました。保護者の方の話は、すごく身じかに感じ、泣きそうでこらえました。とてもいい時間がすごせました。又、来たいです。

母親脳を時々休めよう



母親には、子育てのため子どもの様子や異変に敏感に気付くことができるという脳の働きがあります。それは母親脳と呼ばれ、女性もってうまれた脳の働きです。子育てのための脳の働きですが、そのためにはすごいパワーを使うので疲れてしまうのです。そこで、良い子育てをするために、パワーを回復すること回復する場が必要なのです。特に、障害をもつ子どもに接している母親は、人一倍パワーを使います。

またどうしても子ども中心の生活になってしまいますが、保護者自身の生活も大切にしなければいけません。あるお母さんが「私は親の会に入っています。子育ての情報交換が目的だったのですが、最近はそれ以外の話でも盛り上がるようになりました。買い物とか、趣味とか、すごく楽しいです。」と話されました。

お母さんたちには母親脳からの解放、パワーの回復が必要なのです。そんな時親の会の役割はとても大きいと感じます。親の会を、親の会の仲間を、しっかり利用してください。

事務局だより



※6月3日4日に、東京で全国ことばを育む会代表者会議があり、岡山県からも役員4人が参加しました。

全国親の会の総会と文科省の文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 大西 孝志 先生から、特別支援教育の現状と課題 についてお話を伺いました。

※全国ことばを育む会は、全国各県の通級教室親の会が集まっている親と教師の会です。NPO 法人で、機関紙ことばや ことばの指導パンフレットを発行し、JKA や国庫の補助の窓口になっています。全国的な情報を伝え、行政への働きかけなどを行っています。

- ※ 全国大会、サマーキャンプに多くのご参加いただき、またお手伝いいただきありがとうございました。無事に終えることができ、ほっとしています。詳しくは、次号のたんぼぼや機関紙「ことば」で紹介します。
- ※ 2学期は、県への要望アンケートや県との話し合いを中心に活動します。ご参加ください。
- ※ 機関紙「ことば」の表紙絵を集めた絵葉書を販売しています。1セット4枚で500円です。とても可愛い絵がいっぱいです。販売代金が親の会の活動資金にもなります。ぜひ、お買い求めご協力ください。お問い合わせは、事務局までお願いします。

編集後記 2011年度の第78号の発行は、事務局で作成しました。全国大会やサマーキャンプと並行しての作業で、なかなかすすみませんでしたが、やっと皆さんの手元にお届けできます。ご意見、ご感想をいただければうれしいです。